

実践例「学校・学級経営の深化・充実」 「課題1 確かな経営理念の確立と 地域に根ざした特色ある教育計画の創造」

I. 学校名 別海町立上風連小学校

II. 研究の概要

1 地域連携を生かした特色ある教育活動を目指して

本校の校区は根室管内のほぼ中央に位置し、酪農を中心に開拓されてきた地域である。大正11年に特別教授場が開設されてから4つの小学校が統合され現在の上風連小学校となった。現在児童数64名、1年2年が単式、3・4年、5・6年が複式、特別支援2学級がある。平成30年には上風連地域の開基100周年を迎え、地域と共にある学校として共に子ども達を育てていこうとする風土が息づいている。

また、別海町では、夢と希望と生きがいを持てる子ども達を育てていくため「別海町生き抜く力向上策定プロジェクト」を立ち上げ、家庭・学校・地域が連携し総がかりで別海型学校教育の充実を目指す取組を推進しており、合わせて平成30年度には全町で別海型コミュニティ・スクールの実施を目指している。

本校の経営理念は、「児童の実態、保護者・地域社会の願いや学校教育課題等を把握し、一人ひとりを大切にしたい教育活動を行い、知・徳・体の調和のとれた児童の育成を図る。そのために、地域の教育力を積極的に活用し、保護者・地域の期待に応え、信頼される学校づくりに取り組む」ことである。

上風連地域には、豊かな自然と様々な地域主体の活動団体（連合町内会、青年会、老人会、スポーツ協会、交通安全組織、各種実行委員会等）があり学校へも惜しみなく協力して下さる人材が豊富である。まさに地域の教育力を生かし、教育課程に工夫して組み込みながら、共に子ども達の成長を目指すことができる地域である。

校 訓 ・ 強い体 ・ 優しい心 ・ 考える頭 ・ きまりよいくらし

本校の教育目標 「21世紀の担い手として、国際社会に積極的に生きる心身共にたくましい、情操豊かな人間の育成を目指す。」

学校が学校教育課題 人との関わりを大切にし、豊かな感性を身につける子どもの育成

めざす子ども像

- ・ 積極的に取り組める子
- ・ 最後までやり遂げる子
- ・ 思いやりのある助け合える子

めざす学校像

- ・ 満足度の高い学校
- ・ 信頼度の高い学校
- ・ 達成度の高い学校

めざす教師像

- ・ 実践的な指導力、専門的な資質や能力の向上を目指し研修に励む教師
- ・ 知恵を出し合い協力・協働する教師
- ・ 愛情のある厳しさと優しさを持つ教師
- ・ 子どもと共に汗を流す教師

～本校のキャッチフレーズ～

「地域は教室」「地域は教材」「地域は教師」「地域は家庭」「地域は学校」
《家庭・学校・地域で育てる上風連の子》

Ⅲ. 実践例 ～地域に根ざした特色ある教育活動～

1. すずらん摘み・すずらん贈呈活動

40年以上続いている伝統の活動である。上風連に自生しているすずらは「純白で優しく清い心」の象徴として本校の校章にデザインされている。開拓の時代より癒しの象徴となっていた。



① ねらい

- ・地域の自然に触れ合いながら、自然に恵まれた郷土を再発見し、自分達の住む上風連の良さに気づき、仲間と協力・協働しながら集団意識の向上を図る。
- ・お世話になっている人や公共機関で働いている人達に感謝の気持ちを表し、お年寄りや病院、施設の方々に励ましの気持ちを伝えようとする態度を育てる。

② 実施に当たって

- ・すずらは保護者の私有地（牧草地）の一角に摘みに行くため、事前に依頼する。
- ・天候によってすずらの開花時期が変わるので、実施1週間前後に担当がすずらの観察に行く。
- ・年々野生のすずらんが減ってきているので、PTA環境整備作業の時に、児童・保護者・青年会の協力を得ながら、すずらの苗を学校の周りに植えている。（1年に300株くらい植えるが根の定着が難しく鳥や動物にも荒らされたりする）



青年会と一緒に
すずらんの苗うえ

③ 活動の概要

ア、事前学習や準備

- ・すずらの事や訪問先について調べる。
- ・訪問先への感謝状や励ましのメッセージカードを書く。
- ・5・6年生は障害者支援施設「柏の実学園」へすずらん贈呈訪問に行くため、社会福祉協議会と連携して事前学習を行った。訪問先の方々に喜んでもらうため歌や踊りの企画を子ども達で考えた。



すずらんのとり方を
教えてくれます

イ、すずらん摘み～6月9日、3時間目

- ・スクールバス2台で学校から10分程の群生地へ行く。
- ・縦割り班4班に分かれ高学年と低学年がペアになり行動する。
- ・球根を残して根本近くからはさみで切る、花1本に葉っぱが2枚、若い芽を踏まないよう気をつける等、高学年が下の学年に教えながら摘む。
- ・各班バケツ一杯になる位のすずらんを摘むことができた。



縦割り班で
話し合いながら

ウ、すずらん花束作り～4時間目

- ・体育館で4班に分かれ、高学年が下の学年に代々教えてきているので、子ども達の自主的な活動となっている。
- ・新聞紙に並べ花の咲き具合を見ながら組み合わせていく。
- ・すずらん2～3本を束ねて濡れティッシュを根元に巻きアルミホイルとモールで花束にまとめる。



1年生に6年生が
優しく教えます

エ、すずらん贈呈～5・6時間目

- ・1・2年生は4時間目後半に学校の周りの訪問先まで歩い



すずらんの花束

て行き、感謝の言葉と共に花束を渡してくる。

- ・ 3年生以上は5～6時間目に1台のバスで市街地まで出て各訪問先を回る。

<訪問先>

- 1年生～上風連郵便局、森重商店、
- 2年生～上風連出張所、バスの運転手さん、上風連Aコープ
- 3・4年生～町立別海病院、老人クラブ
- 5・6年生～別海町長、教育長、給食センター、図書館、

④ 振り返り

- ・ 各学級で振り返りを行い、地域の方々の様子や喜んでもらった様子について交流しその後の教育活動につなげていく。



町立病院の看護師さんに感謝と花束を。



花束を渡し、歌や踊りも楽しんだ

IV. 成果と課題

- ・ 伝統として受け継がれ、高学年を中心に縦割り班で自主的に協力し合って取り組むことができていた。
- ・ 地域の方の協力で子ども達が積極的に活動することができた。
- ・ 多くの地域の方と話すことで、相手に自分の思いを伝えることができ、また感謝の心を持つことができた。
- ・ 相手に喜んでもらうことで達成感や自信が生まれ、子ども達の自己有用感を高め、自尊感情を育むことができた。
- ・ 野生のすずらんが少なくなってきたので、育てていく活動の継続が必要。
- ・ 天候により開花の時期が違うため実施時期を決めるのが難しいが他団体との連携もあるので協議しながら進めていく。



町長さんに感謝の花束を。